

非常時小名濱町に

漢學の權威石川先生を聘し 非常時を叫ばれてゐる今に 町有力者である、

政黨は解消すべし

最近政黨の聯合とか合同とかを真剣に議論する様になつた、然も政黨の御歴々の間には具体化した、あつた。然も政黨の御歴々の間には具体化した、あつた。然も政黨の御歴々の間には具体化した、あつた。...

余の心の奥には此際一層の、事國家と云ふ觀念の最も強固なイザ鎌倉と云ふ時、生命を命にする軍人に政治生命を送らば見渡す處軍人、...

社會を毒する 守錢奴の言辭

子孫の爲めに美田を購するものは恒心ありの言は一、子孫の爲めに美田を購するものは恒心ありの言は一、子孫の爲めに美田を購するものは恒心ありの言は一、...

非時時小名濱町に 斯文會生

漢學の權威石川先生を聘し 非常時を叫ばれてゐる今に 町有力者である、漢學の權威石川先生を聘し 非常時を叫ばれてゐる今に 町有力者である、...

水線上に躍る人々 坂本義友氏

酒々落々とし、鹿角を飽飲したるに際を籍す、青年、酒々落々とし、鹿角を飽飲したるに際を籍す、青年、酒々落々とし、鹿角を飽飲したるに際を籍す、...

今年白茶が高い

本縣に於ける白茶市場は、公益質屋事務講習會、本縣に於ける白茶市場は、公益質屋事務講習會、本縣に於ける白茶市場は、公益質屋事務講習會、...

雑信一束

附けませう 馬鹿を見ぬ様に、附けませう 馬鹿を見ぬ様に、附けませう 馬鹿を見ぬ様に、...

尋二 玉川校	四 キロ	高等科邊境校	七、四
尋三 泉校	五 キロ	實業科湯本街校	九、二
尋四 江名校	六 キロ	南兩天の際に順延の	
尋五 鹿島校	六、〇八等		

時事漫筆

玉川村長は... 豫て平刑務所に收容され豫審終結と共に保釋出獄中の駒木根村長は現職の儘期に語る...

我輩の行爲は天地にハチない偶々法に觸れたともしも其事は村會の決議に基き所謂村の總意であるから駒木根個人としては天眞爛漫...

と一寸見の間に入間最高な苦難を嘗めた爲か大分人間駒木根として上達の感觸を覺ひさせる。上野白産業道路... 悲愴なる團結と不抜なる決心の下に上野白産業道路を改修せよの聲は江名全町の輿論となり一般に好評の様様、江名町有力者の言を叩けば九年度の巨款事業として町會も賛成するであらう...

然し、上野白は聲を大きくした處が、寄附金が少なくなつた。之れでは不可ない聲と眞實は飽迄一致しなければ駄目だ、故に當初の言明した丈の寄附金は出さなければ面倒にらう。伊藤國藏氏の如き富ご、營業道路としても夫れ位の金は一人で存した方が却て湯屋の爲めにも國藏氏の爲めにも進んで申出るべきで金持の行ひ處は貧乏人に出来ぬ斯云ふ時にポンと投出す處にあるのだ面して神白の恩人として承

久に其名を誦われた方營業湯屋としても將に刻苦精勵された國藏氏の爲めにも好む機會が到來したとも言ひ得るであらう

隨筆 在江名町 丹野錦郷生

白の秋の光りの流れる窓邊に倚りながら、私は今更らに様に深い瞑想に引き込まれる。そして淡々として水の様な心境に侵りつゝ、過ぎし苦難の日の歩みを振りかへつて見るのである。治つたともつかず 治らぬともつかずの秋を私は何年迎いた事であつたらうか、思えば病んで三年の秋に逢着し、その秋毎に私の舟邊には必ずや何かの反應のあらわれる時であつた。思ひ出深き秋よ?

それが三年の今年に昨冬かけての精進めざましく更生一新の健康を獲得し、實りの秋を迎える事の出たのである。思ひ出の秋よ!! 無情に澄みきつた蒼蒼すべてがうら寂しい思ひ出た。

資本金九百萬圓 福島縣支金庫 小名濱町金庫 株式 七十七銀行 小名濱出張所 電話 五〇五



銘「清世界」「清水正宗」 酒 吉 清水屋本店 小名濱町 電話六番

良品廉賣に勝る商略なし 磐城セメント 代理店 金物 釜屋商店 磐城平町五丁目 電話九番一〇九九番

磐城水産工業株式會社 社長 小野晋平 支配人 福尾太郎 電話六六番百十番

資生堂藥舖 洋酒 衛生材料 化粧品 縫紉機材料 電話一四四番

味自覺 和洋菓子 御製 松屋新 島中町濱名小 電話五七番

白石藥舖 親切・勉強・正確・安心の舖藥 寒暖計比重計一般溫度計販賣 小名濱町中島通り

寶屋商店 縫紉機用品 縫紉機材料 電話九十三番

喫茶... カフェ... みのり 小名濱港

りん病 初期の人には申すまでもなく 各種の治癒も効き目 薬師 松崎 勳

馬目タクシー 貸切の御用は 小名濱町 電話一三八番

木田齒科醫院 小名濱町電話一〇五

上田外科醫院 平町南町 電話一八九

宮津醫院 小名濱 電話一四二番

池部齒科醫院 江名町

市原醫院 平町 電話一四四番

佐瀨醫院 小名濱町電話一三五

中村醫院 小名濱町電話一八番

久保田醫院 小名濱町電話二三番

平川醫院 江名町 電話二六